

ESTORE STAKEHOLDER SALON

株主通信 2020 上期

(2020年4月1日～2020年9月30日)



中期経営計画「Dynamic Ascension」を策定しました

目標 2024年度、売上高2倍・営業利益4倍を計画

結論から先にお伝えしますと、2020年度のグループ計画売上高51億円（来年度以降に適用される新会計基準での概算額※）、営業利益5億円（オフィス統合一時費用1億円を除いた営業利益水準）に対し、「売上高で2倍の100億円」、「営業利益で4倍の20億円」を計画します。内訳は、EC支援（既存事業）で75%、ハンズオンDX（新規事業）で25%の構成を想定しています。

※新会計基準

- ・広告仕入などは売上から除外。営業利益は影響しない
- ・今年度の業績予想売上高96億円に適用すると、51億円に換算
- ・来年度から適用
- ・中期経営計画は、換算数値を用いている

中期経営計画の業績目標

	2020年度 新会計基準					2024年度 新会計基準			
セクター	売上高	営業利益	営業利益率	利益 ポートフォリオ		売上高	営業利益	営業利益率	利益 ポートフォリオ
EC支援	51億円	5億円	10%	100%		86億円	15億円	18%	75%
ハンズオンDX	—	—	—	—		15億円	5億円	34%	25%
合計	51億円	5億円	10%			101億円	20億円	20%	

中計策定

背景1 M & Aによりグループ経営基盤を大幅に強化。成長準備が整う

当社は、創業以来20年を超えて、一貫して顧客の「自社本店EC」を支援してきました。その内容はサブスクリプション型のSaaSシステム提供から顧客店舗の売上向上に向けたコンサルティングやページ制作、集客支援のマーケティングサービスまで、ECの総合支援です。当該分野においては、パイオニアであり、リーディングカンパニーですが、更に直近ではPaaSによる大型EC構築の株式会社コマースニジュウイチと大型のネットプロモーションを行う株式会社ウェブクルーエージェンシーの2社をM & Aし、中型から大型のEコマース総合支援事業者として、グループ経営基盤を大幅に強化したところです。

中計策定

背景2 社会のパラダイムシフトが強烈に加速。ダイナミックに事業構造転換

中期的な将来を見通すと、社会のパラダイムシフトが急速に進むため、ダイナミックな事業構造の転換が必要と考え、新生Eストアグループが目指す方向性をまとめた中期経営計画「Dynamic Ascension」を策定しました。グループ経営資源を集約し、中長期での着実な利益成長と次のステージに向けたダイナミックな事業構造の転換を進めます。

環境 E C市場は成長ファクターが目白押し

- ・国内のBtoC E C市場は年率11%の高成長市場、低いE C化率（6%）は十分な成長余地
- ・構造要因の「人口減」「デフレ」「デジタル化」から顧客企業のD X推進が続き、E Cを加速させる
- ・D X推進の根幹は「良店良客と長期間、信頼関係を築くL T V経営」。その中心にあるのが「自社本店E C」であり、当社グループの中心事業領域

低いE C化率はE C先進国との比較からも十分な成長余地

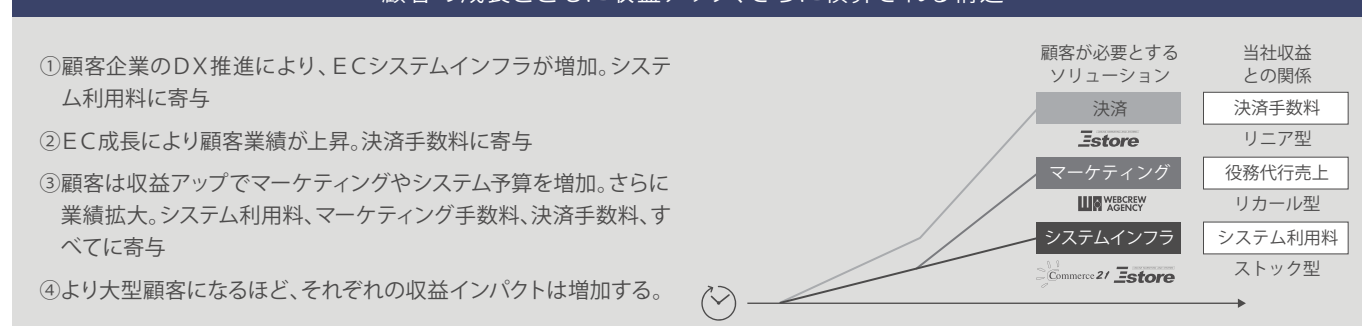


戦略 グループ3社のシナジーを最大発揮

1.E C支援事業の成長(既存事業)

世の中が一斉にD X化していく激戦の時代において、当社グループ事業は、そのどまん中にいるため、基本戦略は変えずに、システム、マーケティング、フルフィルメント、決済などの総合的な提供により、高いクオリティーかつ迅速にE C支援事業を展開していきます。

顧客の成長とともに収益アップ、さらに積算される構造

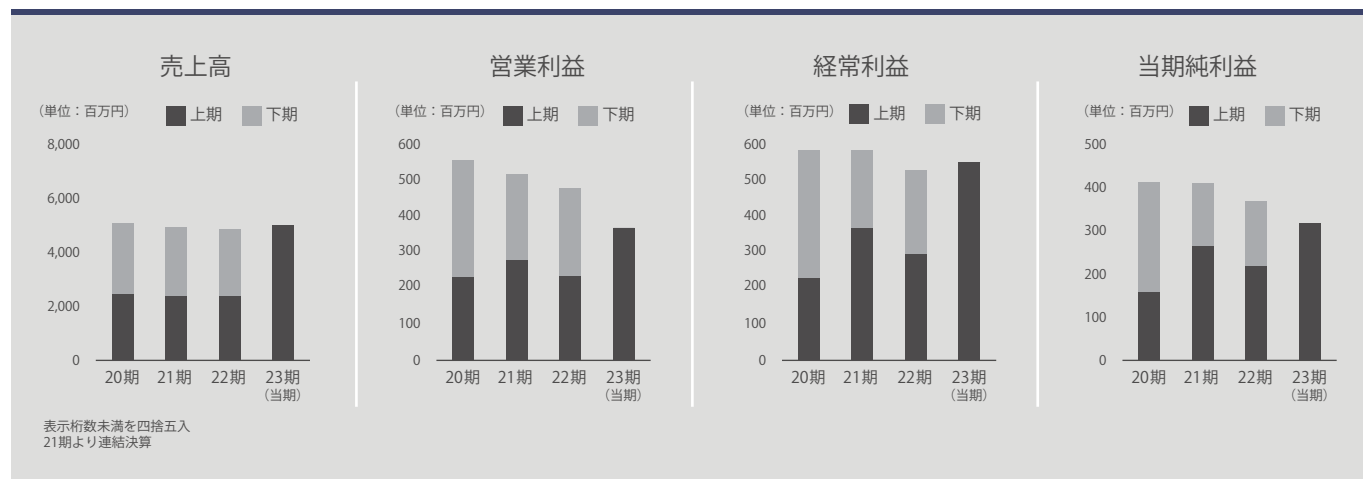


2.20年分のE Cノウハウを投入。グループ主体のE C事業へ参入「ハンズオンD X」(新規事業)

秀逸な商品やコンテンツ、多くの顧客などを有しながらも、予算とE Cノウハウの不足によりチャンスを出す企業を、この20年間で幾度も見てきました。そこで新規事業に対し、E Cノウハウと資源を投下して、当社グループが主体となる「E C事業」に参加します。中期経営計画にこの当該収益を組み込み、長期的に大きく伸ばしていきます。

業績サマリー

顧客のDX投資の高まりを的確にとらえ収益増加。当期より子会社化した2社が売上増に寄与

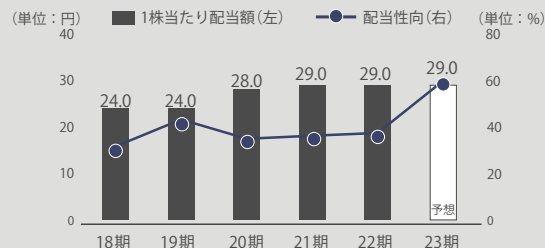


株主優待 総合利回りを意識した設計へ

基準日	優待内容
3月31日	クオカード 1,000 円分
9月30日	クオカード 1,000 円分

基準日に当社株主名簿に記載または記録された1単元(100株)以上を保有されている株主様を対象に贈呈させていただきます。

配当の状況 配当重視のスタンスを継続



当社は、2016年3月18日付で普通株式1株につき普通株式2株の割合で株式分割を行っています。

ダイナミックな動きの中でも安定したインベスター対応を展開

重要テーマとしているダイナミックアセンションは、EC市場の追い風環境を果敢に活かして社会に還元していく事です。Eストアーの東証プライムなどへの市場変更やグループ企業や新規事業におけるSPCなどのベンチャー市場への登録を意識し、それぞれ要件に必要な安定した業績とガバナンスの強化をこの中期経営計画において行って参ります。

- ・Eストアーの東証プライム基準の達成
- ・グループ各社のベンチャー市場上場要件充足
- ・長期戦略に関わるM&A
- ・株主還元の強化